

江崎グリコ(株)

本社所在地	大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
創業 / 設立	1922年2月11日 / 1929年2月
売上高	3,325億円 (2023年12月期・連結)
会社URL	https://www.glico.com/jp/
環境保全関連URL	会社HP ~ CSR ~ https://www.glico.com/jp/csr/ 会社HP ~ グループ環境ビジョン2050 ~ https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/vision/ 会社HP ~ CSRの考え方・推進体制 ~ https://www.glico.com/jp/csr/about/management/policy/
サステナビリティデータ	会社HP ~ 環境実績 ~ https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/target/

持続的成長に向けた環境方針・目標

■ 環境方針

Glicoグループは、温室効果ガスの排出削減や持続可能な資源の活用等をはじめとした環境負荷低減を通じて自然環境の保全に貢献し、地球に生きる様々な生物との共生を実現します。

1. 私たちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。
2. 私たちは、環境汚染の予防や生態系への配慮、地球温暖化防止に取り組み、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。
3. 私たちは、企業活動の質的向上につなげるため、業務の見直しや効率化に取り組みながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスの向上に努めます。
4. 私たちは、環境保全への意識向上を図ると共に、従業員が安全に、そして安心して働けるような事業所を追求していきます。
5. 私たちは、お客様をはじめとする社会とのつながりを大切にしながら、様々なコミュニケーションや社会貢献の活動を推進します。

■ 環境活動指標

- ◇ 商品・サービスへの環境負荷低減
- ◇ 地球温暖化防止
- ◇ 環境汚染の防止
- ◇ 資源の有効活用
- ◇ 業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上
- ◇ 環境教育や安全取り組み
- ◇ 環境コミュニケーションの推進

■ グループ環境ビジョン2050の策定

2021年3月、重要課題に基づいた4つの分野について、2050年をゴールとした中長期ビジョンを設定。豊かな地球環境を未来につないでいくため、活動を推進していく。



■ 環境ビジョン・中長期環境定量目標の策定プロセス

CSR委員会環境部会を中心に、専門家のアドバイスを得ながら、長期軸の環境評価の分析を行い、環境ビジョン案および中長期目標案を作成。

その上で、CSR委員会、取締役会の議論を経て、2021年3月に策定した。



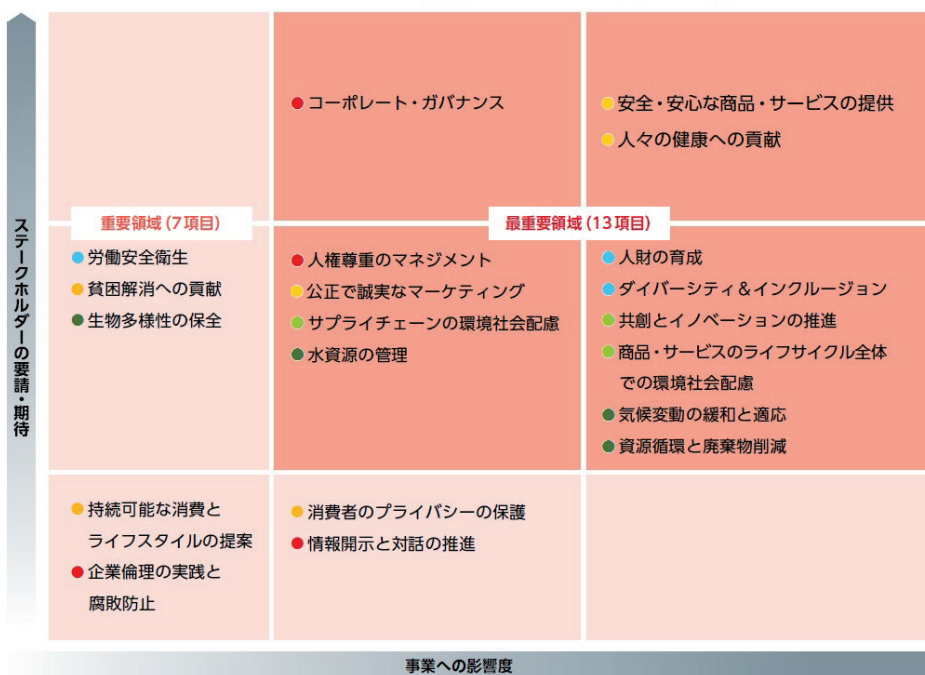
■ マテリアリティマッピング

当社グループでは、事業を通じて社会に貢献し続けていくために、取り組むべきマテリアリティ（重要課題）を明確にした上での活動が重要であると考えている。

2019年6月には、消費者、取引先、従業員、株主・投資家等のステークホルダーの声を踏まえ、マテリアリティの特定を実施した。さらに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指して、グローバルにおける社会課題の視点を強化し、社外の有識者からもご意見をいただきながら、マテリアリティの見直しを行った。

マテリアリティの内容をもとに、中長期における目標・KPIを策定し、活動を推進していく。

● 製品安全・消費者・コミュニティ課題 ● 労働・人権課題 ● 環境・社会共通課題
● 環境課題 ● コンプライアンス・ガバナンス課題



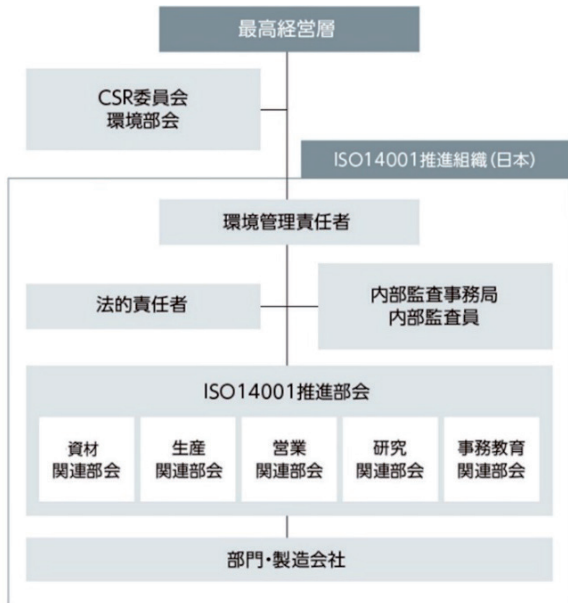
■ マテリアリティの策定プロセス

取り組むべきマテリアリティを明らかにするために、調査・分析を実施。分析の際は、国連グローバル・コンパクトの10原則、持続可能な開発目標 (SDGs)、ISO26000の他、GRIスタンダードやSASB等の示す非財務情報開示基準、FTSEやMSCIをはじめとするESG評価機関の評価項目等を参照している。



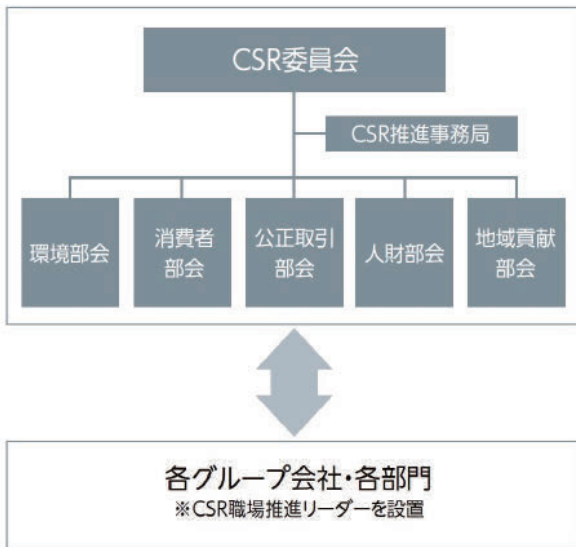
推進体制

■ 環境活動推進体制



■ CSR推進体制

当社では、CSRの推進を重要な経営課題と捉えており、江崎グリコの代表取締役を最高責任者とするCSR委員会を設置し、グループ全体でCSRを推進する体制を敷いている。CSR委員会は議題ごとに年に数回実施し、CSR推進の方向性の策定や進捗状況の確認等を実施。CSR委員会の活動状況については、江崎グリコの取締役会等にて報告を行い、CSRを経営に反映させながらグループ一体となって推進する体制を取る。



■ 原材料調達における取り組み

原材料切替・代替食品開発

事例概要

■ 代替乳製品の開発・販売

・具体的な取り組み①／「植物生まれのプッチンプリン」開発・販売

「家族が卵・乳のアレルギーでプッチンプリンを食べられない」「友達と同じものを口にできず、寂しい思いをしている」というお客様の声がかきかけで開発をスタート。開発に約3年をかけ、2020年3月16日より、同ブランド初となる、卵・乳製品等の動物由来の原料を使用しない新商品「植物生まれのプッチンプリン」の販売をスタートした。発売後、販売店のお問い合わせや、賞賛のお声が多数あるほど、反響は大きかった。



植物生まれのプッチンプリン

・具体的な取り組み②／世界に広がる「アーモンド効果」

日本でアーモンドの名前が知られていなかった1955年に、“1粒で2度おいしい”というキャッチフレーズで「アーモンドグリコ」を発売した。当社は創業以来、アーモンドのおいしさと栄養価の高さに着目し、アーモンドに関する研究と商品開発を進めてきた。

栄養を日常的においしく摂取できる製品を消費者に提供したいという思いから、2014年に「アーモンド効果」を発売、日本におけるアーモンドのパイオニアとして、アーモンドミルク市場の拡大を今後も牽引していく。

現在当社は、日本のアーモンドミルク市場シェアNo.1を獲得しているが、グローバル市場へも展開を進めており、2021年には中国と台湾での販売を開始。2022年末にはタイでのEC販売、23年1月からは小売店での本格販売を開始した。

また、世界的に「植物性ミルク」の市場が活性化するなか、ミンテル（大手グローバル市場調査会社）は、アーモンドミルクが植物ミルク市場を今後リードしていくと予想しており、今後、アーモンドミルクの世界市場での存在感の高まりや輸出拡大が期待できる。

〔グローバル市場展開を目指す「アーモンド効果」〕



〔タイのプレス向けイベント〕



〔乳代替飲料販売額推移・予測〕



出典：アーモンドミルク研究会HP

情報源

<< 会社HP >> ニュースセンター ～ プッチンプリン史上初！みんなが笑顔で食べられる 植物原料でつくった プッチンプリン ～

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/29801/>

<< 会社HP >> ～ 植物生まれのプッチンプリン 65g × 3 ～

https://www.glico.com/jp/product/yogurt_pudding/pucchinpudding/43673/

<< 会社HP >> ～ アーモンド効果ブランドサイト ～

<https://www.glico.com/jp/product/drink/almondkoka/>

<< 会社情報提供 >> 高まるグローバルでの健康意識 世界に広がる「アーモンド効果」Glico News Letter 2023年4月12日

成果（見込含）

原材料切替・代替食品開発・世界市場で存在感を高める展開や輸出拡大

環境／生物多様性保全（国内）

事例概要

■ 収益の一部を、公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付

当社は、エコパウチを使用したガムの販売代金の一部から公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付をしている。

※ この取り組みにより、2018年7月、農林水産大臣より感謝状を授与



エコパウチを使用したガム
「POs-Ca」

■ 東京都にCO₂削減クレジットを寄付

当社は、2020年1月、東京都の2050年CO₂排出実質ゼロを目指す「ゼロエミッション東京」の取り組みに賛同し、CO₂削減クレジット10,836tを東京都に寄付を行った。

情報源

<< 会社HP >> ～ 気候変動への取り組み ～

<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/climatechange/>

成果（見込含）

環境／生物多様性保全

環境／生物多様性保全（国内）②

事例概要

■ 環境に配慮した紙の使用

世界的に森林破壊問題が深刻化するなか、適正に管理された森林から産出・加工された紙を使用することも企業として重要な取り組みの一つと考えており、当社グループでは、環境配慮紙の使用を順次拡大している。

情報源

<< 会社HP >> ～ 商品・サービスへの環境負荷低減 ～
<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/product/>

成果（見込含）

環境／生物多様性保全

■ 製造・廃棄における取り組み

資源循環・食品廃棄物削減

取組背景（目標）

食品廃棄物削減については、「Glicoグループ環境ビジョン2050」でも取り組むべきテーマの1つとし、2050年までにサプライチェーンの効率化や需給予測精度の向上等、廃棄が発生しない取り組みに注力するほか、商品の微細な欠け等、品質に問題がない商品をふぞろい品としてアウトレット販売を行う等、食品廃棄物を95%削減（2015年度比）することを目指している。

取組概要

■ 規格外品のアウトレット販売

・具体的な取り組み／規格外品「ふぞろい品の販売」

当社グループでは、高度な需給予測により過剰在庫を持たない取り組みや、商品に微細の欠け等、品質に問題のない商品をふぞろい品として、アウトレット販売を行う等により、食品廃棄物を削減し、環境負荷の低減に取り組んでいる。

〔今までお客様へ販売することができなかった“ふぞろい品”をアウトレット商品として販売〕



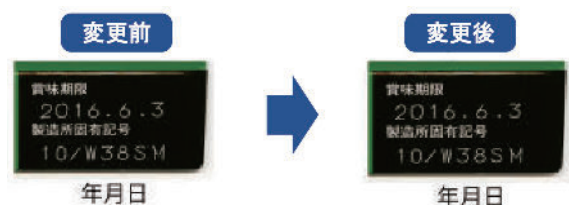
■ その他、食品廃棄物削減に向けた取り組み

・具体的な取り組み①／「食品リサイクル・ループ」への取り組み

工場から排出される食品残渣で育てられた豚を社内の従業員向け食堂の食材として提供する「食品リサイクル・ループ」取り組みを定期的に実施、従業員の廃棄物対策への意識向上につなげている。また、食品残渣から作られた肥料を「こどもびあ保育園」の家庭菜園で使用し、採れた野菜を保育園の昼食で提供している。

・具体的な取り組み②／賞味期限の延長と年月表示化

賞味期限が長い商品については、品質劣化のスピードが遅く、消費段階で日付管理をする意味が乏しいと考えられるため、日付で表示してきた賞味期限を年月表示に切り替えるよう取り組んできた。この取り組みは、食品ロス削減だけでなく、商品配送時・管理時の業務効率化にもつながっている。



・具体的な取り組み③／保存食「賞味期限お知らせシステム」

当社の保存食（ビスコ保存缶、カレー職人）の賞味期限が切れる前にメールで知らせるサービスを提供。いざという時に必要な保存食の、賞味期限が切れる前の消費を促す。



・具体的な取り組み④／従来廃棄されていた「粉ミルク」の活用

赤ちゃん用の粉ミルク「アイクレオ」を製造している柏原工場では、出荷数量の都合等により出荷できず廃棄されてしまう「粉ミルク」が発生していた。



そこで、パン工房を運営する近隣の障がい者支援センターにその「粉ミルク」を提供。ミルクパンの原料として活用されている。

この協働取り組みは、従業員の喫食用にパン工房からパンの注文買取をしていたことがきっかけとなり、食品ロス削減のための新たなアイデアとして生まれた。

・具体的な取り組み⑤／フードバンクへの寄贈

食品メーカーとして、廃棄される食品を削減するため、製造工程で発生する廃棄物削減に注力する等の取り組みの他、フードバンクへの商品寄贈を行っている。



緑洲フードバンクでボランティア活動

上海江崎グリコでは緑洲フードバンクと連携し、中国の貧困地域の小学生に商品を提供するとともに、食べ物を大切にする精神などを伝えた。

協働するフードバンク団体へのアプローチも行っており、2018年度から継続してコープ東北サンネット事業連合様にレトルト食品の寄付を行っており、2022年度は1,890食を寄贈した。

・具体的な取り組み⑥／消費者への啓蒙活動

当社グループの会員サイトでは、「食品ロス」をテーマにしたレシピを募集するキャンペーンや、食品廃棄物削減をコンセプトにしたファンミーティングを実施し、消費者に楽しく食品廃棄物削減に取り組んでもらえるようはたらきかける活動を継続して行っている。

情報源

<< 会社HP >> ～ 食品廃棄物削減に向けて ～
<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/foodloss/>

<< 会社HP >> ～ 環境実績 ～
<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/target/>

成果（見込含）

資源循環・食品廃棄物削減

2022年度の目標	結果・達成率	評価
全製造会社で原材料ロスをベンチマーク比95%以下にする	94.1% ※国内製造会社	○
製品廃棄をベンチマーク比12%以上削減する	48% ※国内の製品廃棄で食品リサイクルされない廃棄	○

環境／生物多様性保全・環境負荷低減①

取組背景（目標）

企業活動で使用する電気、ガス等の使用量を管理し、CO₂の排出量削減に取り組んでいる。また、電気事業者から購入する電力を計画的に再生エネルギー由来に切り替え、工場等で新しい設備を導入する際には、省エネタイプへの切り替えを進めている。

事例概要

生産部門におけるCO₂排出量削減への取り組み

・具体的な取り組み①／コージェネレーションシステム更新、液化天然ガスへの燃料転換

神戸工場では、2020年2月に、コージェネレーションシステムを更新。

那須工場と茨城工場では、2021年2月より、従来のA重油から液化天然ガスに燃料転換したボイラーに更新。

(神戸工場実績:更新前比年間約960tのCO₂削減／神戸工場の総排出量の約4%) (那須・茨城工場実績:年間約1,370tのCO₂削減)



神戸工場コージェネレーションシステム



液化天然ガスに燃料転換したボイラー

・具体的な取り組み②／再生可能エネルギー電力への切り替え

茨城工場では、2022年4月より、購入電力の再生可能エネルギー電力比率を従来の10%から100%に切り替えを実施。

(年間約3,500tのCO₂削減見込)

2023年4月には、他の東日本5工場においても同様に再生可能エネルギー電力の購入比率を100%に切り替え、**国内工場の電力使用量の約50%が再生エネルギー由来の電力となった。**

・具体的な取り組み③／太陽光発電エネルギー活用（上海）

上海江崎グリコ南奉食品有限公司では、2021年12月より、太陽光パネルによる発電（第1期）を開始し、年間約46万kWhの発電が実現した。

さらに2022年、第2期パネル設置工事をスタートし、2023年2月から発電を開始している。

（第1期・第2期合わせて年間約70万kWhの発電、294tのCO₂排出量削減見込）



上海江崎グリコ南奉食品有限公司

・具体的な取り組み④／太陽光発電エネルギー活用（インドネシア）

『Pocky』の最新鋭技術が詰まった新工場、Glico Manufacturing Indonesia が2022年3月末に完成。

敷地面積は約6万㎡、建物の延床面積は約5万7,000㎡で、『Pocky』の自社工場として過去最大規模となっている。

この工場の屋根に、太陽光パネルを設置した。

（年間約124万kWhの発電、年間約1,100tCO₂排出量削減見込）



Glico Manufacturing Indonesia

環境／生物多様性保全・環境負荷低減②

取組概要

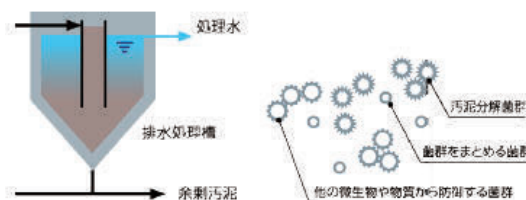
■ その他、生産部門における環境負荷軽減

当社グループでは、一部の工場において、排水を冷凍設備の冷却に再利用する等、水資源の使用量削減に取り組んでいる。

・具体的な取り組み①／排水処理技術の向上

工場が発生した汚水は各工場の排水処理場で放流基準値まで浄化し放流している。工場では好気性微生物を利用した活性汚泥法を用いて水中の有機物を処理しているため、余剰汚泥が産業廃棄物として発生する（約3,000t/年）。

2020年度より、高度な水処理技術を研究し導入することで、排水処理時の産業廃棄物である汚泥の発生抑制および排水処理能力向上につなげており、2021年度より各工場への展開を進めている。

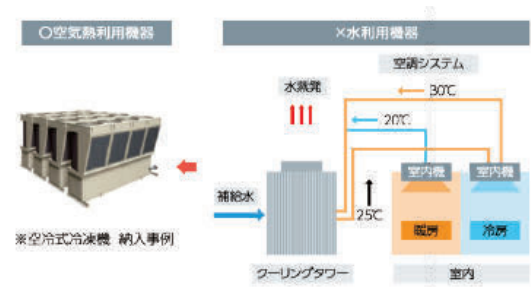


・具体的な取り組み②／水の使用量削減

水による冷却を必要とするシステムを搭載した空調機器は、クーリングタワーと呼ばれる設備で気化熱を利用し熱交換を行うため、供給した水が蒸発してしまう。

菓子工場では、上水使用量の約半分がクーリングタワーの補給水である。

そこで2020年度より、工場での空調機器の選定時には、水による冷却を必要としない「高効率空冷式冷凍機」の採用を推奨し、設備投資計画での老朽化更新や新設時には空冷式を積極的に採用している。



情報源

<< 会社HP >> ~ 気候変動への取り組み ~

<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/climatechange/>

<< 会社HP >> ~ 環境実績 ~

<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/target/>

成果 (見込含)

環境／生物多様性保全・環境負荷低減・資源循環・温室効果ガス排出量削減・水資源保全

2022年度の目標	結果・達成率	評価
CO ₂ 排出量をベンチマーク比8%削減する	24%削減 ※国内製造会社CO ₂ 排出量	○

資源循環・廃棄物削減

取組背景 (目標)

事業活動により発生した廃棄物については、3R (リデュース・リユース・リサイクル) の観点でゼロエミッションを推進している。

※焼却時に廃熱回収、あるいは焼却灰が有効利用された場合は再資源化に含む。廃棄物リサイクル率99.5%以上をもってゼロエミッション達成とする。

事例概要

■ 資源の有効活用

・具体的な取り組み①／「ビニール重袋」を段ボール原紙に再利用

神戸工場では2019年3月より、従来RPF (ボイラー用固形燃料) としてリサイクルしていた「ビニール重袋」を段ボールメーカーと協力し自社製品の段ボール原紙の一部に再利用している。



また、2022年1月からは工場で発生したダンボールも同様に再生処理されたものを神戸工場で使用
するリサイクルループを開始している。

・具体的な取り組み②／セールス部門で発生する廃棄商品のリサイクル

当社のセールス部門で発生する廃棄商品については、2002年度から再資源化に取り組み、飼料や肥料へのリサイクルで活用している。

スーパーマーケット等で使用する販売促進品も廃棄量が多いため、計画的な使用計画を立て、資源を無駄にすることがないように取り組んでいる。

資源循環・環境／生物多様性保全・廃プラ削減①

取組背景（目標）

当社では、安全・安心な商品を提供するため、原材料をはじめとするさまざまな資源を使用している。原材料の調達から製造、消費に至るまでの環境負荷を低減するため、開発・企画段階から環境に配慮した商品設計を行う。

また、容器・包装の機能性向上を追求するとともに、減量化による環境負荷の低減にも取り組んでおり、分別しやすいリサイクルマークの表示や、箱型商品については、小さくたためる加工を行うなど、家庭から排出されるゴミの体積を減らす工夫をしている。

事例概要

■ 容器・包装のプラスチック使用量削減（品目別）

・具体的な取り組み①／プラスチックトレ軽量化

2018年以降、「アーモンドピーク」、「神戸ローストショコラ」のプラスチックトレを軽量化（実績：従来比年間約4t削減）



・具体的な取り組み②／外包装薄化

2022年以降、「ポッキー<8袋>」や「プリッツ<8袋>」の外包装を薄化。（実績：従来比年間約42t削減）



・具体的な取り組み③／ストローの廃止、または素材変更

石油系樹脂を原料としたストローから植物由来原料を5%配合したストローに変更。また、ストローを廃止し直接飲みやすい容器に変更するなど、環境対応型包材の導入を進めている。

2022年以降、すべてのストローにおいて、植物由来素材を5%以上使用したストローを採用。



植物由来原料を配合したストローを導入



事例概要

・具体的な取り組み④／シュリンクフィルム廃止・容器原料置き換え

2021年3月以降、「朝食りんごヨーグルト」のプラスチックカップ容器にラミネートしていたシュリンクフィルムを外し、容器に直接印刷する仕様に変えたことで、プラスチックの使用量を削減。2021年5月からは、容器の一部原料をバイオプラスチックに置き換えている。(年間約24t削減見込)



シュリンクフィルムを外し、直接印刷をした容器

・具体的な取り組み⑤／アイススティック原料置き換え

2019年度以降、「セブンティーンアイス」のスティックの組成の10%を植物由来の**バイオマスプラスチック**に置き換え。

サトウキビから作ったポリエチレンを使用している。



バイオマスプラスチック化

情報源

<< 会社HP >> ～ 商品・サービスへの環境負荷低減 ～
<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/product/>

<< 会社HP >> ～ 環境実績 ～
<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/target/>

成果 (見込含)

資源循環・環境／生物多様性保全・廃プラ削減

2022年度の目標	結果・達成率	評価
1WAYプラスチックの削減推進	単年度目標の削減率には未達	△
環境配慮型包材への切り替えを促進する	森林認証紙採用率の向上	○

■ 物流における取り組み

環境／生物多様性保全・環境負荷低減①

事例概要

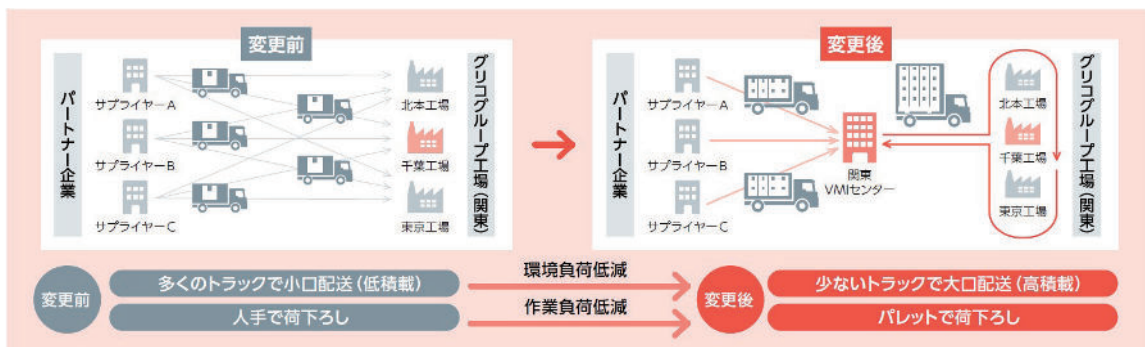
■ 物流工程における省エネルギー及びCO₂排出量削減

- 具体的な取り組み①／「VMI (Vendor Managed Inventory /ベンダーによる在庫管理)」システム構築

2019年10月より、物流における社会課題への取り組みとして、食品製造に必要な原料をサプライヤー各社と共同で一括管理する新たな物流体制「VMI (Vendor Managed Inventory /ベンダーによる在庫管理)」を構築。これにより、トラック台数の削減等による環境負荷削減や納品時における荷下ろしの作業負荷低減に貢献している。

※「令和2年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「経済産業大臣表彰」を受賞

〔ベンダーによる在庫管理システム概要〕



- 具体的な取り組み②／高効率輸送スキームの構築

NEXT Logistics Japanほか15社との取り組みとして『『ドライバー不足によりモノが運べなくなる』という社会課題解決に向けた高効率輸送スキームの構築』を実現。

同取り組みでは、異業種・業態の複数の企業が個社で便を立てて行っていた輸送を、NEXT Logistics Japanのクロスドックセンターに荷を集め、25mダブル連結トラックで束ねて輸送することで、輸送効率を向上させ、省人化や労働環境の改善を図ることができる。

※「令和3年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「国土交通大臣表彰」を受賞

〔複数企業の輸送を集約。高効率輸送の概要〕

事業者

NEXT Logistics Japan ㈱、アサヒグループホールディングス㈱、江崎グリコ㈱、新キオン、鴻池運輸㈱、錦与㈱、千代田運輸㈱、トランコム㈱、新ニチレイロジクス㈱、日本食品ホールディングス㈱、日本梱包運輸倉庫㈱、日本製紙物流㈱、日野自動車㈱、帆立フーズ㈱、三菱HCキヤピタル㈱、興ユーネット㈱

事業概要

業種業態を超えたパートナー各社のノウハウや、CASE技術を活用しオープンな高効率幹線輸送スキームを構築、これを物流に関わる多くの方々より活用いただくことで社会課題の解決を目指す

実施前

個社で便を立てて輸送

【出発地】 A社、B社、C社、D社

【納入先】

・輸送効率悪
・ドライバー数多い
・長時間労働

実施後

NLクロスストックに荷を集め 25mダブル連結トラックで束ねて輸送

輸送効率向上

省人化、労働環境改善

概要図

※ = 実現に向け、現在推進中の将来構想

業種業態を超えた荷主の荷物を、様々な物流事業者のノウハウを活用して輸送幹線-支線をトータルでコントロールし、究極の省人化 / 効率化 / CO2低減を目指す

業種・業態を超えた荷主

「束ねて輸送」幹線輸送

「自動運転技術」で省人化

「低炭素」でCO2削減

様々なノウハウを持つ物流事業者

CASE技術を活用した新たな価値への挑戦

環境／生物多様性保全・環境負荷低減②

事例概要

・具体的な取り組み③／ AI配車活用によるチルド物流最適化

配送車両効率化による積載率UP・CO₂削減・労働時間の短縮を目指し、ライナロジクス社・ゼンリオンデータコム社とAI配車を導入。

物量・配送リードタイム・納品時間などの配送条件を基に、AIが高積載・効率的な配送ルートを設定する。さらに、納品時間の微調整を経て、大幅なCO₂削減・車両台数の削減・労働時間短縮を実現した。

※チルド販売物流でのAI配車を活用した適正化モデルとして、「令和4年度 物流DX・標準化表彰」を受賞

事業者

- 江崎グリコ株式会社
- 株式会社ゼンリオンデータコム
- 鴻池運輸株式会社
- 株式会社ライナロジクス
- 株式会社誠和
- ダイセーエプリー二十四株式会社

事業概要

納品条件が厳しく効率化が難しいチルド販売物流において、配送ルート最適化設計の方法を、人間の経験と勘のみではなく、AI配車システムを導入し活用。得意先への納品条件の見直し、車両変更や附帯作業削減によるドライバー作業負荷の軽減を合わせて実施することにより、AIの提示した適正モデルを参考に実行できる状態に整備し、CO₂削減・車両台数削減、労働時間削減、積載率向上を実現。

実施前

- チルド販売物流は、賞味期限・納品リードタイムが短く、納品条件が厳しい。
- 得意先毎に提示される納品条件に合わせ、経験と勘による人力のルート設計。

協働でルート設計を行うも、

- ✓ 時間と手間がかかる。
- ✓ 条件が複雑で精度に限界。
- ✓ 改善もルート毎の局所的対応にとどまる。

部分的ルート再編	積載率 52%
⇒低積載・非効率な配送	車両台数 47台/日
	労働時間 376時間/日

実施後

- A Iによるルート最適化モデルを参考に、実行できる状態に整備。
- 最適モデル実現のため、得意先と納品条件見直しを商談

AIによるルート設計

- ✓ 短時間で設計。
- ✓ 条件下で最適化。
- ✓ 継続的な改善が可能。

全体的ルート再編	積載率 71%	+19%
⇒高積載・効率的な配送	車両台数 34台/日	▲28%
	労働時間 307時間/日	▲18%

特徴

- システム導入と現場の運用改善を合わせ、関係三者一体での協働効率化実現。
- AI活用による継続的な改善が可能で、チルド販売物流全体に波及することで今後も大きな効果を期待できる。
- 配送車両の適正化、ドライバー作業負荷軽減を行うことで、物流事業者の労働環境改善にも寄与。

効果

- CO₂削減量：379.0t-CO₂/年 (18%削減)
- 車両台数削減：4,745台/年 (28%削減)
- 労働時間削減：25,185時間/年 (18%削減)
- 年間積載率：71% (19%向上)

江崎グリコ㈱

・具体的な取り組み④／「ホワイト物流」推進運動への参加

当社は、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱する「ホワイト物流」^(注1)推進運動の趣旨に賛同し、「ホワイト物流」推進運動事務局に自主行動宣言を提出している。今後も、物流サプライヤーとの相互理解の下に連携して、物流の効率化や生産性向上に向けた取り組みを進める。

(注1)「ホワイト物流」推進運動では、深刻化する運転手不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、①トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化②女性や60代の運転者等も働きやすい「ホワイト」な労働環境の実現に取り組んでいる。

情報源

<< 会社HP >> ～ 気候変動への取り組み ～

<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/climatechange/>

<< 会社HP >> ～ 環境実績 ～

<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/target/>

成果（見込含）

資源循環・環境／生物多様性保全・温室効果ガス排出量削減

2022年度の目標	結果・達成率	評価
物流によるCO ₂ 排出原単位をベンチマーク比99%以下にする	94.7% ※国内販売高原単位	○

■ 販売における取り組み

環境・生物多様性保全・環境負荷軽減

事例概要

■ 自動販売機の省エネルギー化

「セブンティーンアイス」や飲料・デザートなどを販売する、当社専用の自動販売機をに、真空断熱材を追加。LED照明に切り替えるなど、計画的に省エネ機能を搭載した自動販売機に順次切り替え、消費電力を削減している。



情報源

<< 会社HP >> ～ 商品・サービスへの環境負荷低減 ～
<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/product/>

成果（見込含）

環境・生物多様性保全・環境負荷軽減